

平成26年度 学校自己評価表 (最終評価)

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p> <ol style="list-style-type: none"> 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。 	<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 心身ともにすこやかな身体づくり 就職と進学に応えられる学校づくり 地域・地元に変えられ、信頼される学校づくり ものづくり教育の推進
---	--

評価項目	評価の具体項目	年度当初		経過・達成状況	評価結果	改善方策
		現状	目標(年度末の目指す姿)			
1. 心身ともにすこやかな身体づくり		ほとんどの生徒が、気持ちよくあいさつをすることができ、服装、マナー、エチケットも向上している。全校の90%が無遅刻であり、集会でも5分前には集合が完了できるようになってきた。また、環境に対する意識も向上し、ゴミの分別や清掃も概ねできている。 学年が進行するにつれて、意識も行動も向上するが、学校外において校内と同じ意識を持つという点では、まだ不十分な面がある。	○遅刻8%(43回)以下を目指すとともに、朝読書を充実させる。	○8:30の予鈴には着席を完了させる。 ○遅刻届を活用し、2度目の遅刻がないよう個別指導を充実させる。 ○朝読書におすすめの本のコーナーを設置し、図書館の本の利用と読書の推進に努める。	○ほとんどの生徒に時間を守ろうという意識が育っていて、8:30には着席できている。 ○遅刻は年間43回以下を目標にしてたが、3/20現在59回である。内訳は1年37回、2年11回、3年11回で1年生に多い状況である。遅刻のうち、防げる遅刻は26回で、内8割は1年生であった。 ○定期的の特集を組み、生徒に推薦する書籍を提示した。また、図書館だよりを全生徒に配布し、新着図書の内容をしたり、ホームページの更新をするなどして情報の発信に努めた。	B
		○社会人として通用するマナー、身だしなみ、言葉遣い、+αのあいさつが実践できる。 ○情報化社会における正しい判断や望ましい態度を身につけさせる。	○学年集会等をおして目指す姿を周知徹底する。 ○校外での服装・あいさつを含むマナーやルールを守るよう、日常的に指導する。 ○一日の始まりのSHRでの指導を徹底する。(あいさつ・返事・服装・整理整頓・ハンカチの携帯) ○生徒リーダー(ルーム長、生徒会執行部、各部キャプテン等)への啓発指導を行い、生徒自身で注意し合え、改善について話し合える集団づくりを行う。 ○教職員が一致した姿勢で、機会を逃さず指導を行う。 ○日常生活のなかで、正しい敬語が使えるよう意識し、生徒への指導を徹底するとともに大きな声ではっきりとした口調で対応する習慣を身につけさせる。 ○情報モラルについて生徒・保護者への啓発を図る。	○ほとんどの生徒があいさつができていて、+αのあいさつという点では、声が小さかったり目を合わせられなかったりする点が課題である。 ○校内での身だしなみは98%くらいの生徒がきちんとできているが、校外できちんとできないまま対応している生徒がいる。 ○服装指導は月1回実施している。再検査の対象者は1回平均約10%、年度後半で再検査対象者が減少して良い傾向になってきた。内容は5割は頭髪、残りは爪、ハンカチなど軽微なものである。 ○生徒会執行部は、リーダーシップを発揮し、学校全体に働きかけることができた。 ○生徒・保護者を対象に、携帯・スマホ・インターネットの利用に関する講演会を実施し、情報モラルの啓発を行った。		
		○環境に対する意識向上を目指す。	○教室等活動場所・使用場所の整理・整頓、清掃活動を徹底する。 ○実習等で排出される切りくずなどのゴミの分別を徹底させる。 ○環境問題や省エネを考えるパネル展示を設置して関心を深める。	○掃除時間には自分の分担を責任持ってひととおりできていて、次の段階として、自分で考えて工夫してきれいにするという行動や、掃除時間以外に教室や階段に落ちているゴミ等を拾うという行動が取れない。 ○掃除が徹底されていないところ(特にトイレ)があった。 ○実習等で排出されるゴミについて、分別をすることができた。廃油については業者に引き取ってもらい、再利用された。	○生徒の部活動状況について、顧問、生徒会、担任、保護者と連携を密にし、情報を共有して、退部者・未加入者を抑え、加入を促進する。	
		○部活動加入100%を目指す。 ○校歌が大きな声で歌えるようにする。	○部活動加入100%に対しても学年団を中心に部活動の意味を説くなど、指導に当たる。 ○恒常的に部活動加入状況や活動状況を把握する。 ○学校を愛し、校歌をしっかりと歌えるよう機会を見て指導する。	○部活動加入率は9月時点で95%(実質)、1月時点で、1年92%、2年91%(実質)であった。 ○卒業式では気持ちのこもった校歌斉唱を目指す。	○生徒の部活動状況について、顧問、生徒会、担任、保護者と連携を密にし、情報を共有して、退部者・未加入者を抑え、加入を促進する。	
	○人権教育LHRを充実させる。	○事前・事後の担任団での丁寧な協議を進める。 ○外部講師等を活用して、LHRや職員研修の充実を図る。	○人権教育LHRは全教職員で取り組むことを確認しているもの、担任中心の取組となっている。 ○教員主導のLHR運営となっていて、生徒自ら活動する場面を保障していく必要がある。 ○職員研修(7/22、1/27)、PTA研修(8/22、12/2)を開催し、研修を深めた。	○人権教育LHRの実施記録を残し、教材の共有化に努める。		
2. 就職と進学に応えられる学校づくり	早期に進路意識を自覚させ、就職・進学の支援体制を一層整備する。 また、地域や企業と連携し、実践的な『キャリア教育』を推進し、生徒の興味・関心や適性に合った進路実現を目指す。特に職業に関する資格・検定の取得や倉庫版デュアルシステムの導入により、将来のスペシャリストを育てる。 学力を分析し、基礎学力の定着を図るとともに、就職・進学に対応できる学力を計画的に身に付けさせる。 学校生活全体において、生徒の表出の機会を増やし、生徒の思考力や判断力を高める。	○低学年からの進路意識の向上(インターンシップ・デュアルシステムの充実による)勤労観・職業観を育成する。	○早期に進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施するとともに企業や産業界の情報を積極的に伝える。 ○職場見学やオープンキャンパスへの参加を促し、自ら考え行動できるよう指導する。 ○地元企業の見学、社会人講師を導入する。 ○インターンシップの事前・事後指導を徹底・充実させる。 ○個人面接を積極的に行い、早期に進路意識を高める。登校後の時間を有効活用し、学力向上に繋げている。	○進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を行い進路意識を持たせることに努めた。 ○積極的に応募前見学会に参加させ就職試験に備えた。 ○「インターンシップ」「ビジネス実習」の事前・事後指導はおおむねできた。 ○面接週間を設けて、計画的に個人面接を行った。	B	
		○基礎学力の定着と表現力を向上させる。 ○生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上を目指す。	○進路指導部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について丁寧に検討していく。 ○大学・短大・医療系進学希望の生徒に定期的に面接や情報提供を行う。 ○朝テストを毎水曜日に実施し、事後指導を徹底する。また、進学課外、夏季学習会を実施する。(3年) ○個人面談等を活用し、学習時間の確保と学力向上に努める。	○基礎力診断テスト実施後、各教科・進路指導部で今後の指導について方策を考え実施した。 ○朝テストと夏休みに就職課外を行い基礎学力の向上に努めた。(3年) ○平均家庭学習時間は約30分。平均1時間以上家庭学習ができている者は約37%である。ほとんどしていないという生徒は約25%。(12月学校生活に関するアンケート調査より)多くの生徒が、ほとんど家庭学習していない。		
		○学習指導委員会による進学支援体制を確立する。	○進路指導部を中心に大学進学希望者のための、大学調査・大学訪問を実施するとともに、2年次の12月保護者会後、大学進学希望者や医療系希望者への意識づけや具体的な取組を実施する。 ○進学の希望が実現できるような課題研究の検討を行う。 ○合格後も個別指導を継続することにより進学後の学びに対応できる力をつける。 ○選択科目及び履修モデル作成について検討する。	○学習指導委員会を開き、生徒の志望動向情報を共有し、指導体制の検討・確認を行った。 ○大学進学希望者のため大学を訪問し大学調査を行った。 ○本年度は求人確保のため県外企業についても積極的に企業訪問を行った。 ○選択科目の説明に際して、進路に合わせた履修モデルを作成した。また、選択科目のあり方について検討を始めることができた。来年度の調査までに再検討をしていく必要がある。		
		○課題研究と課題研究発表会の一層のレベルアップを図る。	○先進校の課題研究発表会視察を行う。 ○課題研究発表会の実施方法について検討する。 ○県主催課題研究発表会へ参加する。	○各科で先進校視察を行った。 ○専門高校活動成果発表会(2/5)へは電気科が発表、ビジネス科が展示で参加した。各科とも課題研究に積極的に取り組んでいる。		
	○資格取得を促進する。	○資格取得、上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。 ○図書館の検定資格取得コーナー、進路や教科指導に関する本を充実させる。	○資格取得、上級資格取得のための補習は各科とも実施できている。 ○進路決定後も資格取得に挑戦する姿がある。 ○資格検定のための本や進路に関する本は生徒のリクエストに応じて適宜購入した。活用頻度は高く、難易度の高い資格試験に挑戦する生徒が多く見られた。			
3. 地域・地元に変えられ、信頼される学校づくり	学校開放・学校評価を具体化し、PTA・地域との交流を深め、学校理解・PRに努める。 広報活動に力を入れ、保護者・地域の人が教育活動に参加できる機会を増やす。 地域・産業界と双方向の交流により、相互理解を深める。	○PTA総会・PTA研修会参加者を増やす。	○PTA総会の参加者を増やすために、生徒の部活動での様子を実演、学年懇談会などを行う。 ○PTA各種委員会の情報提供をこまめに行う。 ○学校行事や部活動成績などの情報発信回数を増やす等、Webページの更新頻度をさらに上げるとともに、発信情報内容の充実を図る。 ○保護者への連絡などもWebページを活用して情報提供を行う。	○学校行事等についてwebページの更新に努めた。 ○PTA総会の前公開授業、携帯インターネット教育講演会、部活動実演を行い、後に学年懇談会を企画したが、部活動の大会日と重なった種目も多く、教員も含め総会参加者の増加には結びつかなかった。	B	
		○小・中高大連携の一層の促進を図る。	○小・中学校の出前授業等の要請に積極的に応じる。	○北上条小学校の児童を対象に出前授業、北上条小学校との交流事業を行った。 ○授業等をおとして、地域の保育園、高齢者福祉施設と交流を行った。生徒は意欲的に取り組んだ。 ○高大連携事業を計画どおり行った。(鳥取大学)(電気科、生活デザイン科)		
		○中学生志願者数を増加させる。	○中学生体験入学の内容を改善充実させる。 ○学校祭・実習様公開などで学科をPRする。 ○学校カレンダー・学校紹介DVDを配布しLPRしていく。	○中学校体験入学(延べ519人参加)を実施した。体験入学において生徒会執行部による学校紹介を充実させ発表することができた。 ○子ども科学まつり、とっとり産業フェスティバルなどに協力・展示ができた。 ○課題研究で「学校行事カレンダー」、「学校紹介コンテンツ」の作成に取り組んだ。完成した学校紹介DVDを配布しLPRに努めた。(情報科) ○学校祭の広報、校内案内などを工夫し、多くの来場者を楽しんでもらえた。来場者数は745名以上。		
		○地域連携を一層促進する。	○課題研究・ボランティア活動をおとして、積極的に地域との交流機会を増やす。 ○定着指導、企業開拓、求人依頼のため、進路指導部と科で連携して県内の企業を積極的に訪問し、本校教育への理解の促進に努める。	○課題研究・各科実習をおとして地域との交流を積極的に行った。 ○ボランティア活動に参加した生徒は延べ395人であった。 ○定着指導、企業開拓、求人依頼のため、積極的に訪問した。		
4. ものづくり教育の推進	地域産業界や企業等と連携し、専門分野についての基本的知識・技術をもち、チャレンジ精神に富んだ人材を育成する。 また、技術を習得するだけでなく、習得した技術を社会に活かそうとする取組も行われている。しかし、ものづくり教育は専門分野だけでなく、環境整備や生徒会活動などすべての分野に通じるものであることの認識に不十分な面がある。	○ものづくりコンテストを目指した取組を一層推進する。	○地域産業界と連携し、技能向上に努め、ものづくりコンテストへの出場を目指す。	○地域産業界と連携し、技能向上に努め、ものづくりコンテストへ出場し、上位入賞を果たした。 ○社会人講師による指導によって、より高いレベルの技術を習得することができた。	B	
		○技術系クラブ活動を一層充実させる。	○文化・技術系クラブによる作品制作への取組を充実させる。 ○学校祭における学科の特性を活かした企画の提案を図る。 ○学校祭各種企画における共同制作を実施する。	○文化・技術系クラブでは充実した取組ができた。 ○機械工学部ではエコデンカ大会へ2台の出場を果たした。 ○学校祭の内容、規模を維持し、それぞれに特色のある企画を作り上げることができた。		
	○学科間連携を促進させる。	○課題研究などでの学科間の連携を目指す。 ○総合選択制の科目の検討を行う。 ○電子掲示板・生徒会掲示板を活用していく。	○課題研究において、「くらそうや」「くらそうサロン」「くらそう商品開発」等をおとして、他学科との連携を図った。 ○本年度も、生徒会掲示板のみならず、物品の作成、修理などで各科の連携ができた。	○引き続き地域産業界との連携を図り、技能向上に努める。 ○「くらそうや」等で、他学科との一層の連携を図る。 ○総合選択制の充実のため、選択科目等の見直しを検討する。		

評価基準 A:十分達成(95%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)